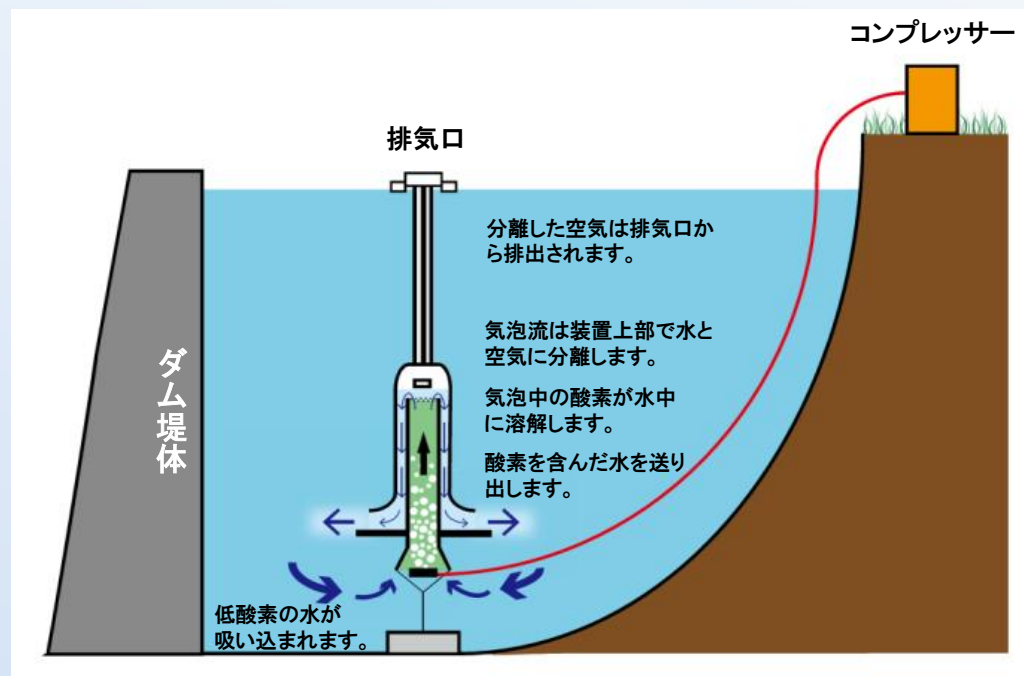


貯水池底層の溶存酸素(DO)低下を抑制するため、令和8年3月30日より深層曝気設備の運転を開始しました。

深層曝気設備は、DOの乏しい貯水池底層に空気を送り込み、底泥に含まれる栄養塩等(窒素、りん等)の溶出に伴う水質悪化を抑制する設備です。

湖岸に設置されたコンプレッサーから空気を設備底部に送り、水と空気を混合させ設備から送り出すことで、貯水池底層のDOを改善するものです。



深層曝気設備の仕組み(イメージ図)※

※ コンプレッサーで送り込んだ空気は貯水池底層の溶存酸素を改善した後、装置上部で水と空気に分離し、空気は排気管を通しダム水面上にある排気口から排出しています。